



# キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

XX  
20th Anniversary 2011  
地域と共に輝く未来

## 開学20周年記念号

2011

4

VOL.38



平成22年度 卒業式で学長と歓談する卒業生

### 特集

- 学長、理事長、学部長、学科長ご挨拶
- 開学20周年のあゆみ
- 開学20周年に寄せて
- 開学20周年記念事業のご案内

### おかげさまで開学20周年!

平成3年4月の開学以来、地域の皆様にご支援をいただきながら、おかげさまで開学20周年の節目を迎えることができました。これからも地域に愛される大学を目指して、「地域と共に輝く未来」を築いてまいります。

# 開学20周年を迎えるにあたって



学長 荒木 信幸

静岡理工科大学は、平成3年4月1日に開学しましたので、この4月で開学20周年を迎えました。人間で言えば「おとな」となることから、この20周年

を契機に、成人としての明確な価値基準を持って、将来に向けて大きく躍進するようにしたいと考えています。現在、そのための記念事業を企画し、段階的に実行に移しているところです。

基本的には、大学の教育・研究機関としての役割を本質的に果たし、ブランド力を高めるために効果的な事業を推進することにあります。記念事業を進めるに当たって持つべきビジョンとして、次のような大学をめざすように心がけています。

- 1) 学生が主役となる大学
- 2) 地域に貢献する大学
- 3) 環境に配慮し、持続的社会に貢献する大学

具体的な事業内容については、別にご参照いただくことにして、ここでは基本的な考え方と方向性についてのみ述べます。

## 1. 学生が主役となる大学

まず、「学生を元気にし、学生の自主・自立を後押しして、一人でも多くの学生に『入ってよかった理工科大学』と言われる」ための教育改革を完成させることです。現在、その骨格を占めるカリキュラム改訂の大枠が出来上がり、その中身の詰めを行っている段階ですが、一つひとつの科目に対して、どのような内容をどのような手法で教育するのかを詳細に構築する必要があります。

この場合、何を教えるかではなく、学生が何をできるようになるかという観点を重視して内容を決めることが大切です。しかも、学生の主体的学びを引

き出すメニューになっていることと、そのために教員はどのような教育手法を駆使すべきかを共有していることが求められます。

また、学生が自主的に学習する環境を整えることも必要です。そのための施設の改修や機能の付加を進めています。図書館のラーニング・コモンズ化は、その代表例です。図書館を学生同士、学生と教員の情報交換や勉学のための共同作業の場にするための機能を付加するものです。

## 2. 地域に貢献する大学

本学が開学するに際して、袋井市をはじめとする地域の自治体や市民、地域企業等から有形・無形の支援を数多くいただきました。さらに、大学を取り巻く現在の状況の厳しさを認識すればするほど、地域と連携しながら共に歩む関係であることが必要です。

このような思いを開学20周年のロゴマークおよびキャッチフレーズに表現しました。ローマ数字の二十を擬人化し、スクールカラーの朱色は本学の構成員を、金色は地域の方々をそれぞれ表わし、「互いに手を携えて『地域と共に輝く未来』を築きましょう」との思いを込めたものです。

## 3. 環境に配慮し、持続的社会に貢献する大学

21世紀は「環境の世紀」と言われ、人々の暮らし方ばかりでなく、産業構造にも変化の兆しが表れています。このような新しい方向性に対して、大学こそが、先導的な役割を果たすべきであると感じています。研究・教育の内容および施設整備において、種々の環境関連の施策を進めて行きます。

このように静岡理工科大学は、開学20周年を迎えて、地域と共に輝く未来を築く決意を新たにしているところです。

## 遠州灘

「エジプトでの民衆デモが約30年に及ぶムバラク長期政権を倒し、アラブに民主化」との記事が目にとまりました。

20年前は、1月に湾岸戦争が起こり、ソビエト連邦が12月に崩壊しました。ピナトゥボ火山の大噴火、カーボンナノチューブの発見、雲仙普賢岳で火砕流発生、千代の富士引退表明、WWWがインターネットにデビュー、PC-9801NC発売、Aung San Suu Kyiさんノーベル平和賞、Pierre-Gilles de Gennes教授ノーベル物理学賞。そしてこの年、静岡理工科

大学がスタートしました。それから今年で早20年、今の日本人に例えると成人式を迎えたわけですが、世界最古の大学は12世紀に創設されたボローニャ大学やパリ大学と云われています。成人式を迎えた本学は、昨今の大学を取り巻く環境の変化にも柔軟に対応しつつ、次の20年、さらにその先を見つめて、日々の努力を惜みず、なによりも日々を楽しみつつ成長していきたいものです。“ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。” といいますが、『学問』の、そして『学び』の楽しさは、永遠に不変のはずです。(K)

特集

## 開学20周年を迎えて

記念すべき開学20周年の節目にあたり、理事長よりご挨拶いたします。



学校法人静岡理工科大学 理事長 佐々木 和男

静岡理工科大学は、お陰さまで今年開学20周年を迎えます。

これまでに、約5,700名の卒業生を世に送り出してきました。これらの卒業生の多くが地元静岡県や東海地方のいろいろな企業で若手・中堅の技術者として活躍しております。

今、世界経済は、ボーダレスなグローバル化が一挙に進んでおります。本学の建学の精神“地域社会に貢献する技術者を育成する”は、地域にあっても広い視野に立って、世界で活躍する元気な学生を育てることにあります。

学校法人・静岡理工科大学は、本大学を中核とし、2つの高等学校、2つの中学校そして6つの専門学校から成り立つ学園グループです。そうした中において、大学はたとえ、“小さくともキラリと光る特色ある大学”でありたいと、魅力あふれるキャンパスと地域の皆さんに愛される風土造りに邁進してきております。私どもは、これからもこうして明るい未来を目指して進化し続ける大学をグループの総力を挙げて後押ししてまいります。

## 次の20年にむかって

理工学部長 出口 潔  
(物質生命科学科 教授)

平成3年4月、本学は袋井市の緑豊かな丘陵地に誕生し、このたび、開学20周年という節目の年を迎える事が出来ました。これも、地域の皆様、関係者の皆様のご支援とご協力があったからこそと教職員一同心より感謝しております。

この間、本学は概ね順調な歩みを重ねてきたように思います。“概ね”と書きましたのは、バブル崩壊、18歳人口の減少、製造業の国内空洞化、リーマンショック等などの荒波に時には翻弄されてきたからです。これらの荒波は日本全土を襲い、誕生まもない本学も等しくそれらに対する厳しい対応を迫られました。順風満帆とまでは言えない20年間でしたが、しかし、その荒波の中で本学は知恵と忍耐力と逞しさを身につけてきたように思います。

この間、本学は概ね順調な歩みを重ねてきたように思います。“概ね”と書きましたのは、バブル崩壊、18歳人口の減少、製造業の国内空洞化、リーマンショック等などの荒波に時には翻弄されてきたからです。これらの荒波は日本全土を襲い、誕生まもない本学も等しくそれらに対する厳しい対応を迫られました。順風満帆とまでは言えない20年間でしたが、しかし、その荒波の中で本学は知恵と忍耐力と逞しさを身につけてきたように思います。

本学の基本理念は「豊かな人間性を基に、“やらまいか精神と創造性”で地域社会に貢献する技術者を育成する」です。この理念のもと、地域の若者を受け入れ彼らの能力を最大限に磨いて社会に送り出す

べく、教育に全力で取り組んできました。この20年間に送り出した若者は約5,700名にも達します。彼らの多くは静岡県や愛知県に就職し、この地域の“もの作り”を支えています。いろいろな場所で彼らの活躍を見聞きするたびに、20年間の地道な取り組みへの確かな手応えを感じると共に、学生・卒業生の彼らこそが本学の根幹であり財産である事を実感させられます。近々、卒業生の二世が本学に入学し始める時を迎えます。20年という歳月の重さをかみしめております。

次の20年も、地域の皆様の期待に応え、魅力ある大学として成長していくよう努力いたします。どうかこれからも、本学を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

## 情報学教育の充実に向けて

総合情報学部長 菅沼 義昇  
(人間情報デザイン学科 教授)

総合情報学部は、平成3年(1991年)の大学創設時における理工学部知能情報学科を平成11年(1999年)に改組・拡充した理工学部情報システム学科をベースにし

て、平成20年（2008年）4月に、「コンピュータシステム学科」及び「人間情報デザイン学科」の2学科からなる情報学に対する総合的教育を行う学部として創設されました。

今、20数年前に、情報学とは何なのか、本学科において何を教育すべきなのか、などについて考えながら、他大学にない独自の教育を行うことができる学科を目指し、知能情報学科のカリキュラムについて検討していたことを思い出します。知能情報学科の規模からいって、情報学に対する総合的な教育は難しい状況でしたが、将来的にはそれを実現することを夢見てカリキュラムを作成していました。情報学に対する総合的な教育を行うという考え方は、現在まで引き継がれており、総合情報学部の創設によって多少実現に近づいたかも知れません。

しかしながら、教育内容の詳細や重点の置き方に関しては大きく変化しました。そして、今後も、社会状況を見ながら、多様に变化していく必要があります。また、そうでなければ、総合情報学部の発展はあり得ません。今後とも、他大学にない総合情報学部の実現を目指し努力していく所存です。皆様のさらなるご支援、ご指導をよろしく願いいたします。

## あらゆる産業の未来を担う機械工学

機械工学科長 教授 仲野 雄一



機械工学は全ての産業を支える基盤であり長い歴史を持っています。例えば、情報、宇宙、エネルギーなどの分野における革新的で夢のような技術も、過去の膨大な経験やさまざまな学問・知識を積み重ねて獲得できたものですが、そこに果たした機械工学の役割はきわめて大きいものがあります。

機械工学科は、本学が位置する地域の基幹産業と将来の発展を見据え、ロボット・ヴィークル工学コースと航空工学コースを設置、さらにそのいずれかを主として学びながら教育内容が国際的な水準にあることを保証する総合機械工学コースを加えた3コース制をとり、多様な個性と価値観を持つ学生の希望にきめ細かく応えようと考えています。

十分な基礎知識を身に付け、同時にものづくり教育や地域産業との連携を重視した実践的教育の充実

を図り、新しい分野にも適応できる応用力を備えた人材を送り出すことを目指し、常に教育内容を吟味し改善を図りながら教育水準の一層の向上に努めてまいりたいと思います。

## 新たな時代を切り開く電気電子工学科

電気電子工学科長 教授 郡 武治



ものづくりの盛んな遠州地域、求められているのは確かな目と力をもった次の担い手を育てることです。確かな目は激変する車産業、素材・部品メーカ、電子制御通信機器、そしてこの地域の最先端技術である光

分野、究極の宇宙産業まで視野に入れた時代を見る目であり、力とは基礎的な技術に裏づけされた行動力です。

私たち電気電子工学科は、このような担い手をもつくりを通じた実践的教育により育ててまいりました。この20年の間に多くの学生が本学で力を付け、飛び立ちました。地元企業への貢献例として、昨今話題の電気自動車では、4年も前から学内でプロジェクトを結成して取り組み、地元研究会では主導的役割を果たしています。

今後、現在設置している「光応用・電子デバイス」、「情報・通信」、「電子制御エネルギー」の3コースをさらに充実させることにより、光エレクトロニクス素材・部品から情報通信、新エネルギーまで最先端技術の研究開発と実用化技術開発を推進して行く予定です。最後に、地元企業によき人材を提供することは本学の使命であり、企業への技術的支援、企業との共同開発等において、今後も貢献してまいります。

## 物質生命科学科の目指す教育

物質生命科学科長 教授 住谷 實



当学科は大学設立時「物質科学科」として設置されました。しかし、21世紀になってエネルギーの問題、環境の問題、食と生命の問題などが大きな社会問題としてクローズアップされるようになり、学問の世界でもこ

これらの問題に正面から取り組むような学際領域が急速に進歩・発展してきています。本学科もこれら人類共通の課題に果敢に取り組み、その解決方法を探る若い技術者・研究者を育てる学科として、学科名を「物質生命科学科」と改名して今日に至っています。

しかし一方で、大学のユニバーサル化の中で入学してくる多様な学生を、科学技術の担い手として育てる大学教育の質と教育力が問われるようになってきています。物質生命科学科では実験や演習などの少人数教育を重視し、一人ひとりを丁寧に教育し、4年間を通して能動的に学べる学生を育て、人類共通のこのような課題にチャレンジしていく若い担い手を育てる教育を行おうとしています。「チェンジ」するためには何回でも「チャレンジ」する。そのことが社会に巣立っていったとき、学んだことを基礎に更なる飛躍が出来る柔軟な考えと、応用力を持った人材として活躍できるものと確信して努力して来ています。

## つぎのステージに向かって

コンピュータシステム学科長 教授 鈴木 千里



本学開学20周年の節目に総合情報学部コンピュータシステム(CS)学科の学科長着任の抱負を述べるに当たり、たまたま10周年の節目に理工学部情報システム(知能情報)学科の学科長に着任した際に述べた抱負を若干長くなりますが引用いたします。

『・・・計算機の知識を共通基盤として、コンピュータ系、ネットワーク系、生命情報系に関する基盤育成を行っています。しかし高度情報化社会においては、これらの知識だけでは必ずしも十分とはいえません。・・・しかも対象は、理工学分野に限定されるのではなく、ときには経済動向予測のような経営戦略であったり、また災害時の行動意志決定のような社会科学的なもの、国や地方自治体の政策意志決定のような政治学的なものであったりもします。・・・このような情報の内容にも立ち入ることのできる情報技術者の育成を目指しています。』

この思いが現在の総合情報学部として開花してきました。特に、理工系の潮流の強化充実としてCS学科、人文系の潮流の強化充実として人間情報デザ

イン学科として進化してきたものと考えています。つぎの節目となる10年先に向けて総合情報学部の設置の理念が名実共に具現化し、更なる進化が遂げられるように両学科に跨る人文・理・工系の教員が三位一体となって、教育研究に邁進したいと考えています。

## 情報学の新たな発展と人間情報デザイン学科

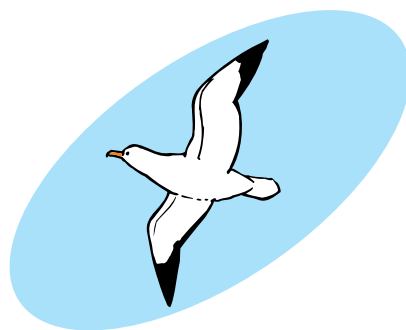
人間情報デザイン学科長 教授 秋山 憲治



人間情報デザイン学科は、総合情報学部の分立にともなって3年前に誕生した新しい学科です。しかし開学当初の理工学部知能情報学科は、すでに「人工知能」に関心を向けており、この意味で、人間情報デザイン学

科の一部分は開学当時から胚胎していたといえます。その後、情報コミュニケーション技術の発展は、「人間にやさしいコンピュータ」とともに「コンピュータと上手につきあう人間」をいっそう求めるようになりました。つまり情報学のなかに「人間」を有機的に組み入れることが、不可欠になったのです。

そこで本学科では、コンピュータの情報処理の仕組みと技術を追究しながら、脳・神経、遺伝、運動・行動、心理、言語・文化、組織・社会という多様な側面をもった人間の情報処理の仕組みを追究していきます。こうして、Webデザイン、e-learning、発想支援をはじめとするソフトウェア開発、ビジネス・システム開発、商品開発、健康・福祉支援、生産・物流管理、マーケティングなどに、人間についての知識を生かした情報コミュニケーション技術を適切に応用できる人材を育成します。人間情報デザイン学科は、人間とコンピュータとのインターフェイスをよりよくデザインすることを目指しています。



おかげさまで本学も今年で開学20周年を迎えます。この20年を振り返り、大きな出来事をまとめました。20年間で本学も大きく変化し、更なる飛躍を目指して様々な取り組みを続けています。

平成 3年 4月 1日	開学
	久松敬弘学長着任(初代学長)
	理工学部、機械工学科、電子工学科、知能情報学科、物質科学科の1学部4学科を設置
	5月 11日 開学記念式典を挙
平成 5年 9月 24日	彫刻「光の座」教育棟中庭に設置
平成 6年 12月	学歌制定
平成 7年 3月	同窓会発足
	4月 1日 中川龍一学長着任(第2代学長)
平成 8年 4月 1日	大学院理工学研究科修士課程開設 (理工学研究科システム工学専攻、材料科学専攻の2専攻を設置)
平成 10年 2月	すずよクリエイティブハウス(学生創作ショップ)完成
	9月 1日 塩田進学長着任(第3代学長)
平成 11年 3月	研究実験棟(新築棟)完成
	4月 1日 知能情報学科を改組し、理工学部情報システム学科開設
	9月 グランド照明設備完成
	10月 10日 同窓会発足5周年記念総会を挙
平成 12年 4月	スクールバス運行開始
	10月 クラブハウス完成
平成 13年 4月	開学10年目を迎える
	静岡北高等学校・星陵高等学校との高・大一貫教育を開始
	9月 人工芝テニスコート開場
	11月 9日 開学10周年記念式典を挙

開学記念式典



同窓会発足5周年記念総会

エコスクールバス運行開始



食堂・売店リニューアル

平成 14年 6月	韓国大邱大学校と交換学生協定締結
平成 15年 4月	電子工学科を電気電子情報工学科に名称変更 教育開発センター設置 コンビニ・カレーショップ開店
平成 16年 4月	物質科学科を物質生命科学科に名称変更 歩行者・自転車専用道路開道
平成 18年 1月 13日	中国浙江工商大学と交換学生協定締結
2月 19日	同窓会発足10周年記念総会を挙行
9月 1日	荒木信幸学長着任（第4代学長）
12月 20日	夢創造ハウス・エンジン実験棟完成 SISTランゲージサロン設置
平成 19年 7月 6日	中国浙江省教育国際交流協会と教育交流協定締結
10月 12日	中国浙江工商大学と教育・学術交流協定締結
平成 20年 3月	本学の卒業生が延べ5千人を超える
4月 1日	理工学部情報システム学科を改組し、総合情報学部を開設 (総合情報学部コンピュータシステム学科・人間情報デザイン学科開設) 電気電子情報工学科を電気電子工学科に名称変更 教職課程を設置
10月 17日	浙江理工大学・浙江科技学院（中国）との友好交流協定締結
10月 18日	中国計量学院との教育・学術交流協定締結
平成 21年 7月 22日	エコスクールバス（バイオディーゼル燃料）運行開始
9月 24日	食堂・売店リニューアル
平成 22年 2月 28日	同窓会発足15周年記念総会を挙行
平成 23年 3月 17日	「先端機器分析センター」竣工式
4月	開学20周年を迎える

## 本学支援者・元教職員編

平成3年の開学以来、長年に亘ってお世話になっている本学支援者、元教職員の皆様からお祝いの言葉をいただきました。



開学20周年に寄せて  
袋井商工会議所 専務理事  
(前袋井市教育委員会 理事兼教育部長)  
鈴木 満明さん

私と大学とは、創成期の頃からご縁がありました。エコパの建設に伴う愛野新駅や周辺のインフラ整備、サッカーW杯、国体の開催、また、大学の高度技術を活かした産学官の連携交流、農商工の地域イノベーション事業、ものづくりフェスタ、さらには市民体験入学や留学生受入れなどの中で深い関わりを持たせていただきました。歴代の学長先生のご理解と大学側の積極的な取り組みに、改めて深く感謝申し上げます。

優秀な人材の地域輩出、地元企業への技術貢献はもとより、「地域に開かれた大学づくり」の理念のもと、各種の公開講座やシンポジウムの開催、小・中学校での理科実験講座の開講など、多大な地域貢献をしていただきました。学生の皆さんが「学校教育アシスタント」などのボランティアとして活躍する姿に、子どもたちも学生にあこがれ、市民も一層親しみが増してきたことと思います。

今後も、先端技術を活かしたあらゆる分野の地域産業へのさらなる貢献をはじめ、教育環境の充実など、変わらぬご支援をお願いするとともに、学生の皆さんには、全国・世界に飛躍されることを祈念しています。



開学20周年に寄せて  
掛川工業高等学校 校長  
松田 好道さん

「やрмаいか精神と創造性」で地域社会に貢献する技術者の育成を基本理念に確実な発展を遂げられ、20周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

静岡理工科大学と掛川工業高校との連携、交流は平成13年から始まりました。大学の先生方による高校では体験できない高度な専門知識や技術の直接指導、立派な施設や機材をお借りしての授業、自動車部やロボット工作部などの部活動においても大きな力添えをいただいております。

高大連携につきましても10年の節目となりました。これまで、大学の教育資源の一部を高校の教育活動に活用させていただく「一方通行」の取組が多かったように思われます。これからは、高校と大学が一層の相互理解

を深め、お互いの教育の充実・改善に資することができるような連携ができたかと考えています。

結びに、この記念すべき開学20周年を契機に、静岡理工科大学がますます飛躍発展されますことを心からお祈りいたします。



開学20周年おめでとうございます  
学校法人 静岡理工科大学 評議員  
鈴与株式会社理事 水島 章隆さん

この20年間で本学は着々と充実してきましたが、日本経済は失われた20年ともいわれる低成長社会でした。

次の20年はどのような世界になるのでしょうか。

日本は人口減少時代に入った成熟した国ですから低成長が続くでしょうし、今や日本を抜いてGDP世界第2位になった中国をはじめアジア諸国が高度成長期に入り日本を追い上げてくるものと思われま

静岡県は日本でも有数のものづくり県ですが県内企業の世界各地での展開がさらに進むでしょう。

産学ともますます国境の垣根が低くなり卒業生が日本以外の国で働く機会も多くなると思われます。

企業が求めているのは世界のどこに出しても活躍してくれる人材です。

本学の学生諸君には「やрмаいか精神と創造性」で世界に翔っていたゞきたいと思



開学20周年の意義、  
基盤形成から新しい発展へ  
学校法人 静岡理工科大学 参与  
慶應義塾大学 名誉教授  
長島 昭さん

静岡理工科大学が20歳を迎えたことは本当に喜ばしいことです。日本では20歳で若者は成人式を迎えます。成人式は、本当はそこから先が重要です。若者が選挙権を得て社会の責任を負わされるように、大学やさまざまな組織でも、20周年はおめでただけではありません。その先へ向けて大きく離陸していくことができるか、それともマンネリ化して活力を失っていくか、特別に難しい分かれ目の年だといわれているのです。

大学は創立後20年も経つと社会に知られるようになり、卒業生も社会の中堅になっています。創設時に植えた木々は豊かに育っています。しかし一方では、創設時のメンバーの多くは引退し、創設の精神は社会変化に合わせて見直しが必要になる時期です。学生も先生方も困難へのチャレンジよりも安定志向に変わる時期なのです。

その難しい20年目は、実は新しい発展の芽を見出す最適なチャンスでもあります。新しい芽の発見は自分の与えられた条件を見直すことから始まります。日本列島の



中心に位置する静岡県、静岡県の発展なくして日本の発展はありません。美しい風景や温暖な気候、豊かな農産物や多くの産業など、世界でも最も恵まれた環境を与えられています。静岡理工科大学はそこに足場があり、地元や産業のバックアップもあります。

恵まれた環境を活かせるかどうか、それは人であり教育です。最近の日本は悲観論が多い。若い人は今こそ自分で新しい芽を作り出さなくてはならない。そのキーワードは独立、国際、伝統でしょうか。独自の工夫で新しい芽を考え、独立の気概で推進する。国際的に見ると静岡県は田舎ですが、世界は無数の田舎から成り立っています。国際競争も国際協調も仲間形成もそこからスタートします。サステナビリティ（持続性）といわれるまでもなく、20年前を比べると、案外、人の社会には継続があることが分かります。次へ向けてのよき伝統が静岡理工科大学から作り出されていくことを期待しています。



静岡理工科大学開学20周年を祝う  
元学長特別補佐役 / 基礎教育室 教授  
小林 純一さん

20周年、おめでとうございます。開学時期に携わった一人として、当時のことがいろいろと懐かしく思い出されます。新しい私立大学の創設にあたって、教育、研究の様々な経験の先生方、運営面を支える事務系の方達、経営面での理事側の方々、いろいろな方々の思惑が交錯して、時には多くの戸惑い、討議もありましたが、それぞれの良識ある努力が結集され、年とともに、結実していったと考えています。

私の在籍12年間（専任と客員）のこと、とくに教育研究面（教育改革委員会、大学院、卒研指導など）運営面（学長特別補佐役、“現状と課題”誌の編集など）、産学交流面（連携フォーラム行事、企業見学会、総技研運営委など）等々、一緒に関わった人々とともに、思い出は尽きません。

私の思い出はともあれ、20年の本大学の成長は、多くの大学関係者の努力と協力の集積ですので、その歴史を、関わってこられたそれらの方々と共に語りたいと思います。そして今後とも、平成の大学として、さらなる新しい発展の歴史を刻まれるよう念願して止みません。



13年間のチャレンジ  
元理工学部 部長 / 機械工学科 教授  
矢田 浩さん

教職員の皆様、OBの皆様、お久しぶりです。ご活躍の様子は、常々SISTキャンパスニュースで拝見しています。

私の在職した開学からの13年は、大学にとっても、私にとってもチャレンジの期間でした。フルタイムの教員生活は初めてだったので、皆様に助けられながら一生懸命やったつもりですが、経験不足などで皆様にご迷惑をかけたことが多々あったと思います。温かく見守っていただいた皆様に感謝しています。

思い出もいろいろありますが、大人数の講義が多かったので、出席のチェックに苦労しました。学生2人と聖岳に登ったことがあります。1人は韓国の留学生でした。はじめの頃は学生と一緒に楽しむ余裕がありました。

温暖な気候のせいか、おとなしい学生が多かったような気がします。これからは県外あるいは国外に飛び出すことが多くなり、より一層のチャレンジ精神が必要でしょう。学生諸君の奮闘を祈ります。



開学20周年に寄せて  
元理工学部 部長 / 電子工学科 教授  
山田 祥二さん

開学20周年おめでとうございます。経ってみると20年は早いものですね。

当時、電子工学科の特徴として実験に重きをおきたいと思い、全ての学生にICの製作を経験させようと考えました。関係の方々のご了解を得て微細加工設備の予算を認めていただき、また担当の河村先生が着任されて実現の運びになりました。

教員人事についても実務に経験のある方を重点的にお願いしていたのですが、文部省は大学教員の経験者を希望しておりました。そのようなときに豊橋科技大から榎本先生が御出でいただき、この問題を乗り切ることができました。榎本先生が御在任中にお亡くなりになったことは、痛恨の限りでした。

開学後暫らくして、当時の久松学長から大学院の設置の検討を命じられました。種々の検討や折衝の末、完成年度より1年遅れましたが大学院修士課程の設置が認められました。カリキュラムの再検討もその頃に実施されて、大学の基礎ができあがりました。

多くの方々のお力によって新しい大学が設置され、それにいささかでも携わることができました。ここにご関係の皆様にお礼を申し上げます。



開学の思い出  
元理工学部 部長 / 情報システム学科 教授  
三浦 甫さん

開学20周年を迎えることになったとのことである。静岡理工科大学設立の時の古く楽しかった話を思い出した。記憶が定かでないが、昔話として記録に留めたい。

平成元年の2月、静岡理工科大学設置専門委員会が設置された。委員長は当時日本自動車研究所所長の石原智男先生で、初代学長予定者であった。先生は元東京大学工学部長で、学術会議第5部の部会長、自動車に関する日本の権威だった。ただ大変残念なことに、大学が認可されたとの報告があった数日後の平成2年12月25日に亡くなられた。この特集号をご報告として捧げたい。なお委員の半数は国立大学の名誉教授であった。

大学設立に当たっての教務会議がまず開かれた。浜松駅前のプレスタワーの会議室で行われた。昭和63年末のことである。静岡理工科大学設置専門委員会は主に静岡駅周辺の会議室で行われた。回を重ね、ほぼ2年で文部

省の認可を得ることができた。当時、大学設置自由化前で、かなり厳しい審査が行われていた。

私の担当は情報科学科と計算機室であった。しかし専門委員の菅沼義昇先生には情報科学科に関する実質的な作業を、小嶋卓先生には計算機室に関する作業をすっかりお任せした。カリキュラムが明確になるにつれて、学科の名称が問題になった。わが国における情報科学科の内容はかなり偏っており、本学で教えようとしている内容とは全く異なっていた。議論の結果、知能情報学科とすることになった。この名称には若干こそばゆいものがあったが、当時のわが国としてはかなり先端的な名称である。また、計算機室は当時最新鋭のワークステーションを学生1人1台設置し、他学に先駆けた施設とすることが出来た。

平成元年末には、校舎の建設が始まった。現地の事務局として、袋井市役所の別館の一室に設置準備室が設けられた。2~30人の先生予定者と事務局の関係者が常時活発に作業しており、大変な賑わいであった。

平成3年1月の入学試験を皮切りに大学がスタートし、同年4月開学に至った。



静岡理科大学開学20周年に寄せて  
元学校法人 静岡理科大学 専務理事  
中西 恭二 さん

20周年誠におめでとうございます。小生は平成7年から20年まで皆様と一緒に仕事をさせて頂きました。そのご縁で本日の喜びを共有できますことを大変幸せに感じております。本学が誕生しました平成3年には全国で約500の大学数でしたが、今では50%も増加し760を越えています。まさしく成長産業に逸早く参入しその一翼を担って現在があるわけで、創設に携わった方々に深く敬意を表する次第です。

今後厳しい競争の中でさらなる飛躍を遂げるためには、より高度な質の追求も重要となるでしょう。その指

標の1つとして、学部生数に対する大学院生数の比率があります。国別では、平成20年の日本は10%（本学が生まれた平成3年は5%）、韓国、米国は14%、そしてイギリスは22%と日本は低位です。大学の研究成果や教育の質は大学院生の数と共に増加するはずですから、今後少しでも多くの院生が他大学からも集まり、アクティビティと質が向上することを祈念して止みません。



『いつまでも愛校心、懐郷心を』に願いをこめて  
学校法人 静岡理科大学理事・監査室長  
(元静岡理科大学事務局長)  
齋藤 博 さん

20周年おめでとうございます。私は、平成5年から12年まで在籍させていただきました。創生期であったために必ずしも施設設備は十分ではありませんでしたが、先生方・事務職員、袋井市及び市民の方々も新しい大学を作ろうと活気に溢れていた時期でした。

第1回卒業生に持たせてあげた心に残る思い出が2つあります。1つには学歌の制定です。作詞は公募を行い全国から100を超える応募の中から地元袋井市出身の寺田美穂子さんが故郷にできた大学への思いを綴った歌詞が選ばれ、作曲は小林亜星さんをお願いしました。卒業式までに覚えてもらおうとCDを制作して全学生に配りました。もう1つは、当時の豊田袋井市長が「卒業生は袋井市の親善大使であってほしい」との言葉をヒントに愛野公園の一区画を「理工科大学の森」にして大学キャンパスと共に袋井市への思い出の場所にしようと市に協力をお願いしました。毎年卒業生のカンパで約20万円相当の1本の植樹をしてもらい、管理は袋井市にお願いしています。1年は1本でも10年、20年経てば林になり、50年、100年経てば「理工科大学の森」になります。

これからも、大勢の人達が支え合い広がりのある大学として発展していただきたいと祈念しています。

## 卒業生編

それぞれのフィールドで活躍を続ける頼もしい卒業生、そんな彼らから母校への熱いメッセージが届きました。



アイシン精機株式会社 HV駆動技術部  
(機械工学科1998年度卒業)  
中村 祐一郎 さん

— 昨年の事ですが Motor Fan illustratedの学生フォーミュラの特集で静岡理科大学の記事を読みました。僕が在学していた頃は小さなロボコンやエコラン大会などに参加するのが精々だった事を考えると後輩達の活躍は目覚ましいです。こういったイベントに全力でチャレンジすることはすごく良いことだと思います。

大学の外にはちょっと変わった面白いイベントがたくさんあります。例えば、ダウンヒルダービー、国際ルー

ルの雪合戦、ママチャリ7時間耐久や事務イス2時間耐久レースetc。僕がイベントを通じて知り合った他県の大学生はとても元気や活気がありました。

活気ある大学生は他県の大学でも一部の人だと思いますが、就活はもちろん社会人になると新しいことに挑戦する積極性のある人やバカみたいな事でも真剣に取り組む人がたくさんいます。

在学生には自由な時間が持てるこの時期に、積極的に新しい事に挑戦して、色々な経験をして活気ある大学生を送り、社会に出てきてくれることを期待しています。



本学総合技術研究所研究員  
(電子工学科1997年度卒業)  
田中 清高 さん

開学20周年おめでとうございます。昨年秋に12年ぶりに理工科大に復帰しました。高校、大学に進学して会社に就職する。これ

が大多数の学生の歩む道になっており、私もその道に進むと思っていました。私の場合、高校と大学の成績は平均ぐらい、運動も平均ぐらい、体格や顔立ちは典型的な日本人、極めつけは田中というありふれた名字です。在学時は標準的な日本の学生という表現がぴったりでしたが、徐々に自分の人生を変えてみたくなりました。大学卒業後に静岡県から飛び出しました。他大学院に進学して博士の学位を取得し、その後は研究員として研究所や大学を渡り歩きました。

少数派で前例の少ない道を歩むのも良いものだと思います。20周年ともなると前例という言葉が様々な場面で飛び交うと思います。前例に倣ってれば失敗は無いと思いますが、大きな成功も掴めないと思います。前例を無視するのではなく詳細に検証し、これを覆すにはどんな準備が必要なのか。大学経営、研究開発、就職活動など何事も前例に捕らわれ過ぎずに、新たなことにチャレンジしていきましょう。



株式会社光コーポレーション  
(物質科学科2005年度卒業)  
鈴木 仁美さん

開学20周年おめでとうございます。卒業からすでに5年、こんなに月日が経ったのかと驚いています。思えば在学時代もすごく早く過ぎていったのを思い出します。実験レポートを徹夜で完成させた事やバーベキュー大会、卒業旅行に行ったディズニーランド、研究室のみんなとおバカな事をしたことなど、話したらきりがありません。楽しい事もそうですが、今思えば大学生活は社会に出る下準備のように感じます。授業や研究室で学ぶ中、どう考え行動するか。今は「学生」を利用して、親・教授・社会人に少し頼って色々な事を学んで吸収すればいいと思います。また現在就職難ですが、こんな私でも学業を活かしたウナギの一括検査をしています。きっかけは社長のふとした想いつきからで、理工科大学と共同研究を始め、特許出願、その後新聞記事で数回、テレビにも出させていただきました。

なんでも諦めないで頑張れば実を結びます。また今でも常吉教授には大変お世話になっていますが、今後共宜しくお願い致します。私もそうですが、日々精進ですね。



株式会社キーズファクトリー  
執行役員ソフトウェア開発部長  
(知能情報学科1995年度卒業)  
齋藤 健太郎さん

開学20周年おめでとうございます。初めて静岡に降り立った時のお茶の香り、初めて大学に向かった時の期待と緊張感、そして初めて大学に向かう途中の桜並木が昨日の事の様に思い出されます。

私が入学した時はまだ2年目の大学でした。その時生まれた子供がもう当時の私と同じ年齢になっているかと思うと、とても不思議な気持ちです。

大学で過ごす時期は色々な事を経験できる時期です。

私は在学中は親元を離れてアパートで一人暮らしでした。初めてのことはばかりで大変なことも多くありましたが、勉強に部活にアルバイトと、多くの人たちに支えられながら楽しく過ごすことができました。

今在学中の学生の方々、また今後入学してくる方々の大学生活も、すばらしい経験と思い出になる事を願っています。



中日本高速道路株式会社  
金沢支社金沢保全サービスセンター  
(大学院 システム工学専攻 2006年度修了)  
小杉 忠博さん

開学20周年おめでとうございます。私の在学した2001年からの6年間は、愛野駅開業や道路の整備、ワールドカップの開催等大学周辺の環境が大きく変化している時期でした。それでも大学周辺は多くの自然に恵まれ、入学当初、新緑溢れる環境の中で友人と共に講義や実験を受けたのを今でも鮮明に覚えています。実験や研究への興味から進学した大学院時代は、電子工学科の恩田先生の指導のもと、夜遅くまで研究に没頭し私なりに満足できる研究ができました。研究室の仲間とは、我々の研究内容を地域の方々にぜひ知ってもらおうと大学祭の準備に全力を尽くしたり、研究室で夜を明かした事、バーベキューやキャンプを何度となく計画し実行したことは、今でも良い思い出です。地元出身の私にとって静岡理科大学は、母校という誇りであると共に地域の誇りでもあります。大学関係者の方々、先生方、在学生の皆さんのご尽力のもと、今後何十年と発展し続けることを願っています。



株式会社東芝セミコンダクター社  
四日市工場第三生産技術部主務  
(大学院 材料科学専攻 2000年度修了)  
飯川 裕文さん

静岡理科大学は、私にとって青春舞台です。人生が大きく変わる「出会い」がありました。私の在籍期間は大学院・研究生を含め計7年でしたが、その間に研究の第一線で活躍されている先生方に巡り合い、幸運にも厳しいご指導を頂きました。それまでの教科書的な勉強スタイルから離れ、自らの興味で物理現象を考察することの面白さと科学的な考え方を身に付けることができました。

現在、私は株式会社東芝で最先端半導体メモリの技術開発に携っていますが、「半導体」との関りは大学3年次の授業で、そのユニークな物性を学んだ時からです。胸の高鳴る興味に出会った瞬間でした。当時の感動は今でもはっきり覚えています。

舞台が変わった今もなお、私の「青春」は続いています。それは先生方・先輩後輩・友人との今日まで続く交流を通じて、興味の対象が理系だけでなく、文学や歴史等の文系へも大きく広がっているからです。多くの学生が静岡理科大学で色々な「出会い」に心ときめいてほしいです。

学生の主体的な学習支援を推進する「図書館のラーニング・コモンズ化」、本学の研究開発の拡充と共に本地域における研究拠点としての機能を担う「先端機器分析センター」の立ち上げ、科学・技術の進歩を分かりやすく解説する「公開講座」の開催についてご紹介いたします。



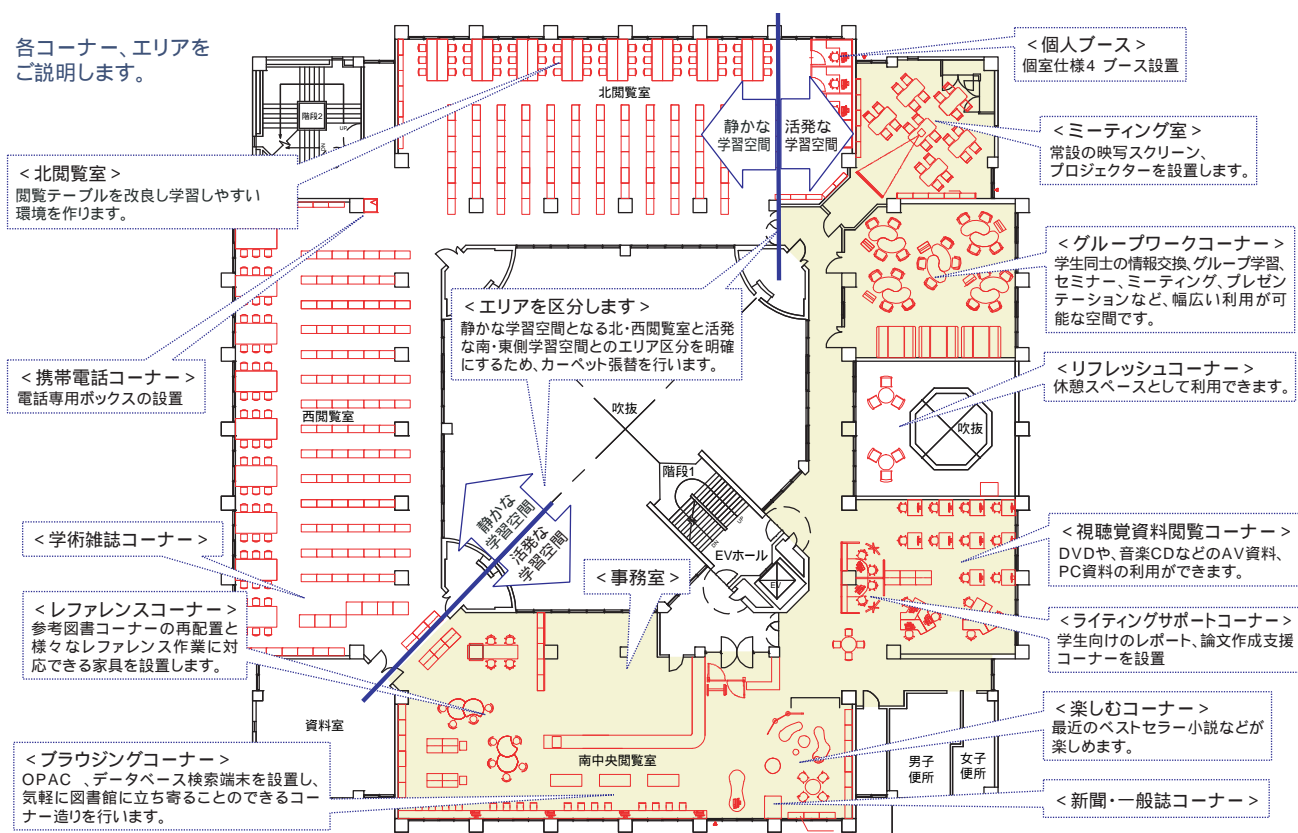
## 図書館のラーニング・コモンズ化

創立20周年に図書館は生まれ変わります。一般に大学図書館の役割は、この20年間で、研究・教育の支援から学生の主体的学習の支援へと大きく転換してきています。従来の図書館は、本を借り、読書し、勉強や調査研究をする「静かな空間」でした。しかしながら近年では、くつろいだ環境で学生たちが自由に集い、話し合い、知識を深め、自ら学び情報発信をしていく滞在型の「活発な空間」(ラーニング・コモンズ)が求められています。本学も、学生の多様化したニーズへの対応と学習支援の強化のために、図書館をラーニング・コモンズ化します。

具体的には、図書館を「静かな空間」と「活発な空間」に区分けし、後者のコモンズエリアはガラス張りのオープンスペースに改修し、学習の「見える

化」を図ります。自由に会話できる<グループワーク室・ミーティング室>には、人数や用途に応じてレイアウトを変更できる稼動式の机と椅子を配置し、プレゼン用のプロジェクターやホワイトボード、無線LANなど学習に必要な設備も整え、多目的な学習空間を提供します。<ブラウジングコーナー>では、PC用カウンターが窓側に設置され、情報検索が気軽にできます。現在のラウンジスペースには飲料自動販売機を設置し、長時間休憩もできる<リフレッシュコーナー>とします。また、レポートや論文作成、学習支援用の<ライティング・サポートコーナー>を設置し、「人的サポート」などソフト面での支援も充実させます。ご期待下さい。

### 改修計画(ラーニング・コモンズ導入)の概要



## 先端機器分析センターの完成

「平成22年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受け、平成23年3月17日（木）無事に竣工式を行なう事ができました。

これは開学20周年記念事業の一環として本学教員による研究開発プロジェクトの申請を行い、平成22年度から5年間の研究期間で採択されたものです。

今後、「先端機器分析センター」を核にして、独自の微量元素分析・画像化（マッピング）技術を確立するための研究開発プロジェクトを推進してまいります。

このプロジェクトの成果は、地域企業における新たな材料開発・分析技術の向上、半導体材料・非鉛系セラミックス材料・小型強力磁石材料等の機能性材料の開発、更には農水産物の安全性評価に貢献できると期待しております。



さらに、本研究プロジェクトの成果を活かして、地域企業における新たな材料開発や分析技術向上に貢献します。本学が立地する静岡県は、製造業や農水産業が盛んですが、中小企業では研究開発環境を自社で整備することが困難な状況であるため、「先端機器分析センター」が、産学官連携による省エネ省資源型の地域産業創成を目的とする先端研究開発の拠点として貢献できるよう取り組んでまいります。

## 開学20周年記念 静岡理工科大学前期公開講座のお知らせ

申込  
不要

入場  
無料

テーマ

輝く未来

会場

本学学生ホール3階  
300講義室

第1回 5/28(土) 13:30~16:30

第2回 6/25(土) 13:30~16:30

講演テーマ/食糧資源を科学する

講演テーマ/生活に密着したロボット

講演1 「食べてつくる健康～食品の機能性～」  
静岡理工科大学 理工学部  
物質生命科学科 講師 吉川 尚子

講演1 「実用化を目指したロボットの研究開発」  
静岡理工科大学 理工学部  
機械工学科 講師 鹿内 佳人

講演2 「魚介類をおいしくする～漁獲前から食卓まで～」  
東京大学 名誉教授 阿部 宏喜 氏

講演2 「ロボット技術の進化とその過程」  
宇都宮大学 工学部  
機械システム工学科 准教授 尾崎 功一 氏

# Event Street

本学では、年間を通してバラエティ豊かなイベントが繰り広げられています。その時々「本学の今」を感じていただければと思います。

## オープンキャンパス

7月25日(日)、8月7日(土)・8日(日)・28日(土)の4日間、オープンキャンパスを実施し、高校生816名、保護者188名の延べ1,004名の参加がありました。学生ホールに各学科の展示ブースを設け、多くの来場者に紹介する事ができました。



## 公開講座

9月25日(土)と10月16日(土)の2回に渡って「後期公開講座」を開催しました。

第1回目は、「いま求められる英語授業とは」をテーマに本学 人間情報デザイン学科の巨理陽一講師と静岡大学 教育学部の三浦孝教授が、第2回目は「暮らしを支える先端分析技術とは」をテーマに本学 物質生命科学科の常吉俊宏教授と小林久理眞教授が講演を行いました。



## 市民体験入学

9月5日(日) 本学にて市民体験入学を開催し、県内各地から約240人が参加しました。全体講義では、恵泉女学園大学 人間社会学部の藤田智教授が講演を行いました。選択講義の座学講座では本学 電気電子工学科の小澤准教授、物質生命科学科の桐原准教授が、体験講座では機械工学科の浦田教授・仲野教授、電気電子工学科の袴田教授、物質生命科学科の小林教授、コンピュータシステム学科の手島講師、人間情報デザイン学科の富田准教授、情報センターの高林課長・岡崎職員が、それぞれ講義を行いました。



## 総合防災訓練

10月8日(金)に、教職員と学生による総合防災訓練を行いました。避難経路を確認する共に、本学グラウンドでの消火訓練にも取り組みました。地震や火災に対する備えを見直す非常に良い機会となりました。



## 大学祭

大学祭Sistival '10が10月23日（土）・24日（日）に開催されました。今回は、袋井市「ものづくりフェスタin袋井」も合わせて開催されました。1日目には模擬店や水 Rocket 制作、電気自動車耐久レースなどのイベントがあり、2日目には熱気球搭乗体験、甲斐名都さんのスペシャルライブなどが行なわれ、前回の2倍以上の来場者が訪れ、とても思い出に残る大学祭となりました。



## 公開シンポジウム

1月29日（土）に、「太陽エネルギーが創る未来の生活」をテーマに平成22年度公開シンポジウムを開催し、175名の参加がありました。

当日は、東京工業大学大学院 理工学研究科の小長井誠教授による基調講演の後、「太陽エネルギーで輝く地域の未来」をテーマにパネルディスカッションを行ない、参加者も交えて活発な質疑応答が展開されました。



## SIST企業セミナー

1月21日（金）・24日（月）の2日間、本学のアリーナでSIST企業セミナーを開催しました。景気の見通しは依然として不透明にも関わらず、企業の潜在的な採用意欲は強く、2日間で145社の参加をいただきました。延べ612名の学生が人事担当者との面談に臨みました。学生は熱心に各企業ブースを訪問し、多くの人事担当者からお褒めの言葉をいただきました。徐々にではありますが、景気の上向いている兆しを感じられました。



## 卒業式

好天に恵まれた3月19日（土）、平成22年度卒業証書・学位記授与式が行なわれ、理工学部 第17期生232名が卒業、大学院生10名が修了しました。

荒木学長は式辞の中で「技術者としての責任感、人間としてのモラルを持って行動し、人々に夢と希望を与えるような前向きな人になってほしい」と激励し、卒業生達は晴れ晴れとした表情で巣立っていきました。



## 平成23年度 学年暦 (学部・大学院)

入学式	4月3日(日)	大 学 祭	10月29日(土)～10月30日(日)
前期授業開始	4月7日(木)	冬 期 休 業	12月28日(水)～1月9日(月)
チャレンジハイク	5月14日(土) (予定)	後 期 定 期 試 験	1月30日(月)～2月9日(木)
前期定期試験	7月29日(金)～8月5日(金)	春 期 休 業	2月10日(金)～3月31日(土)
夏 期 休 業	8月6日(土)～9月21日(水)	卒 業 者 発 表	3月9日(金)
後 期 授 業 開 始	9月23日(金)	卒 業 式 ・ 修 了 式	3月17日(土)

## 人事異動

### ●平成22年9月1日付採用



**理工学部物質生命科学科 准教授 齋藤明広**  
 専門分野: 応用微生物学、土壌微生物学、分子微生物学  
 略 歴: 東北大学農学部農芸化学科卒、筑波大学大学院博士課程修了(博士(農学))、博士研究員(農業環境技術研究所、東北大学遺伝生態研究センター、オスナブリュック大学、農業生物資源研究所)と千葉大学 助教(大学院融合科学研究科ナノサイエンス専攻)を経て本学准教授に就任。  
 趣 味: 子育て、日本酒、釣り、読書(歴史小説)



**理工学部機械工学科 講師 鹿内佳人**  
 専門分野: ロボット工学、メカトロニクス  
 略 歴: 宇都宮大学大学院 工学研究科 博士後期課程修了、宇都宮大学 地域共生研究開発センター 非常勤研究員を経て本学講師に就任。  
 趣 味: スキー、読書、ドライブ、食べ歩き

### ●平成23年3月16日付採用



**総合情報学部コンピュータシステム学科 講師 飯倉宏治**  
 専門分野: コンピュータグラフィックス、画像処理、コンピュータビジョン  
 略 歴: 豊橋技術科学大学大学院工学研究科知識情報工学専攻修士課程修了、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー アートアンドメディアラボ科卒業  
 趣 味: 天体観測

### ●平成23年4月1日付採用



**理工学部電気電子工学科 講師 武岡成人**  
 専門分野: 音響工学、デジタル信号処理、電子回路  
 略 歴: 早稲田大学 国際情報通信研究科 博士課程修了、株式会社ダイマジック 技術部、早稲田大学 表現工学科 助手を経て本学講師に就任。  
 趣 味: 水泳



**教育開発センター 特命准教授 藤田重晴**  
 専門分野: 高校数学の授業研究、数学科教育法  
 略 歴: 名古屋大学理学部数学科卒、静岡県立春野高等学校 校長、静岡県立袋井高等学校 校長、静岡県立浜名高等学校 校長を経て本学特命准教授に就任。  
 趣 味: 家庭菜園、温泉巡り



**教育開発センター 特命講師 JENKINS, Adam Brian**  
 専門分野: 応用言語学、e-Learning (Moodle)  
 略 歴: 西インドネシア大学院卒、マコーリー大学院卒、タムナ大学(韓国)英語学習キャンプ英語教師、有限会社イー・シー・エル・エイ常勤英語講師、本学非常勤講師を経て本学特命講師に就任。  
 趣 味: サイクリング、パソコン、旅行

### お疲れ様でした

(平成22年9月30日付)

コンピュータシステム学科 講師 **手島裕詞**

(平成23年3月31日付)

電気電子工学科 教授 **野村龍男**  
 電気電子工学科 教授 **河村和彦**  
 物質生命科学科 教授 **惣田昱夫**

教育開発センター 特命教授 **野島 譲**  
 教育開発センター 特命講師 **齋藤孝夫**  
 教育開発センター 特命講師 **Pavliy Bogdan**  
 電気電子工学科 教授 **恩田一** (H23.4～客員教授)

## 役職者

## 紹介

平成23年4月1日付

学長  
 理工学部長  
 総合情報学部長  
 学生部長  
 附属図書館長  
 機械工学科長  
 電気電子工学科長

荒木 信幸  
 出口 潔(教授)  
 菅沼 義昇(教授)  
 宮岡 徹(教授)  
 田中源次郎(教授)  
 仲野 雄一(教授)  
 郡 武治(教授)

物質生命科学科長  
 コンピュータシステム学科長  
 人間情報デザイン学科長  
 工作センター長  
 先端機器分析センター長  
 情報センター長  
 事務局長

住谷 實(教授)  
 鈴木 千里(教授)  
 秋山 憲治(教授)  
 前川 昭二(教授)  
 吉田 豊(教授)  
 田中源次郎(教授)  
 澤田 厚二

## 編集後記

今回は開学20周年記念号ということで、開学から20年間のあゆみ、理工科大を除く支えて頂いている地域住民、元教職員、卒業生の皆様から、理工科大との20年や理工科大に期待することなどのご意見を頂きました。  
 静岡理工科大学も創立20周年を迎え、在学生と同じような年になりました。理工科大学、在学生の今後の進化が楽しみです。(Y)



静岡理工科大学キャンパスニュース  
 平成23年4月1日発行  
 企画・編集・発行 / 静岡理工科大学 大学広報委員会  
 〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2  
 TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110  
<http://www.sist.ac.jp>